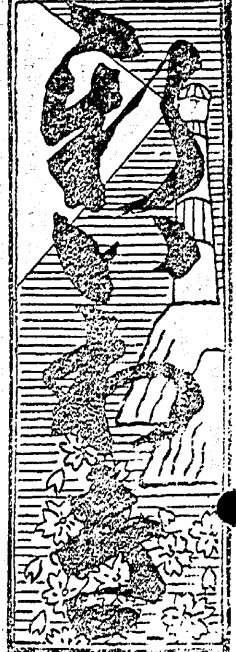


刊夕日一十三月二



日刊休日... 郵局... 新聞社

常識講座... 水難防の目的を貫徹し町民生活に偉大な幸福を齎すことと信じます

時局は非常時に直面す

一致協力難局を打開せよ 助役 井上茂作

追はずとも年は去り、迎へずとも年来たりて昭和十二年となつた。乾坤一轉、一陽來復は天地自然の動きであつて古くもなければ新しくもない。此の常道を繰返す毎に新年を敷ふるは山河の生物に生滅老若の歴史あればのみ、年改まつて歡びを交はされ

皇紀二千五百九拾七年の新春を迎へ旭旗萬戸に翻り瑞雲天に漲り洋々たる和氣地に瑞ち濡々たる 聖代に生を享け茲に恭しく 聖壽の無窮と國運の隆昌を頌し町民各々と俱に一堂に相會し光輝ある超歳を誓するの光榮を有するは不肖の洵に欣快とする所でありま

念ひを茲に置いて昨十一年を顧みれば内外騒る多事内には新春早々二・二六事變を惹起し反軍また皇座を奪するにありて國民の思念を失はず問もなく御親威に跪拜して鎮靜を見たるもの、昭和の聖代に一大汚點を残し、外には伊太利のエチオピア征服に相次へてスペイン内亂の慘、未だ収まらざるものあるに隣邦支那は張學良の反によつて動亂の禍中にあるに蔣介石生還したりとは云へ混沌たる彼の現狀と其の將來に世界の視聽は今や東亞の天地に集注され、虎視眈々たる軍閥の暗闘が懸て何う落つてであらうか

伏て惟るに萬世一系聖祖文武今上陛下には愈御乾德高く皇后陛下には倍々御仁慈洽く御坤德淑かに 皇太子殿下を御始めとし各親王宮殿下最と御健かに拜し奉り寶祚の彌榮と天壤と興に窮りなき 皇座の御繁榮を壽き申しますこととは誠に慶祝に堪へざる所でありま

謹賀新年 印刷部 大庭 美樹 外庭 安次 木村 同次 編輯部 外谷 一政 同喜 牛部 同喜 新いわき新聞社

り平小鐵道の着工も數ヶ月を出でざる機運に際し本町の將來は海岸唯一の商工業都市として躍進的に大平市を建設するの條件具備せりと思考す此際町民各位の深甚なる協力に信賴し健全なる自治の發達を期し町民生活の向上進歩を圖り而して國家社會に奉仕する覺悟であります

Advertisement for New Year Greetings (賀新年) listing various local businesses and organizations such as 石城郡銀行組合, 阿部瀧藏, 高橋龜松商店, 立花種久, 青沼鋒太郎, 石城郡炭礦鑛業所, 古河炭礦鑛業所, 片倉磐城製平工場, 石城郡町村長會, 石城郡學校長會, 平庶民金庫, 三井自動車部, 木澤常松, 福島縣農事試驗場石城分場, 矢野泰治, 齊藤泰治, 石城郡銀行組合, 阿部瀧藏, 有煙無煙石炭, 高橋龜松商店, 小林清吉, 石城郡四倉町, 新妻盛, 立花種久, 福島縣木炭検査所, 平支所, 服喪中に付, 賀狀欠禮, 青沼鋒太郎.

平局の賀状の雪崩れ 今日配達卅六萬通

目方にすれば約二百四十貫

平郵便局に於ける舊曆一日間の特取扱ひ年賀郵便は前年比して何れも非常な増加を示し引受四二〇九四六通(前期三九〇五〇一で八分増)繼越七〇三九二九通(前期六六〇七五で七分増)配達二六三四〇通(前期二二七六九三で九分増)の外三十日の引受七三三三(前期三三九六)これに卅一日午後四時の下列車までの到着四万通を加へて今日到着の分をも能ふ限り當日の配達に不手配を整へてゐるが元朝の配達總数は卅六萬余に達する見込みで内八割強は當日平町内に配られるものゝ如く恰度人口二萬八千人に對して一人當り十通に平均し市外五千戸約二萬六千人へは八萬通で通信力が遙かに劣り三十一名の配達人の持分で最も多きものは十五貫目少なきもので六貫五百目この總費約二百四十貫に上る由である

昨年平驛總收入 四十五萬九千圓

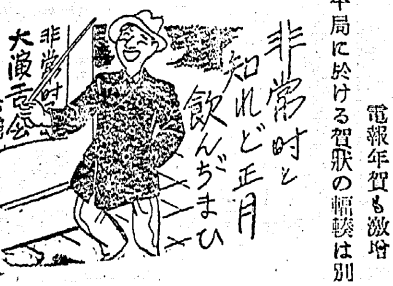
前年より四萬圓の増収

平驛に於ける昨年(一月から十二月)の旅客貨物總收入は客收入卅萬七千三百六十八圓貨物收入十三萬二千四百六十二圓、手小物同二萬五千五百五十二圓合計四十五萬九千九百九十二圓を上げ前年の四十一萬九千三百七十七圓に比して三万九千九百四十八圓を増収した其の

年賀切手での増加

私製 葉書 電報年賀も激増 平局に於ける賀状の幅数は別

非常時 知れど正月 飲んぢまひ



此の句は前年一才釋した事があったと思ふがその昔都大路では尊い方の乗物は牛車であつたのであります。其牛車を曳く御用の牛は長門牛と極まつて居て今の山口縣から徴されたもので、だから長門國では牛には脊に物を乗せな

迎年詞

初空やからすを乗する牛 満壽莊

恭賀新年

平消防組 組頭 井上茂作

牛の話

牛にはこんな面白い偶話がある、これは支那の昔話であるが、或る片田舎に相當大きな川がありそこに渡場があつた、舟で兩岸の交通をつないで居りました、ある寒い時の事、舟を曳いたみすばらしい老人が参りました、舟の舟頭は、舟を曳いて向ふ岸へ渡りたいと思ひますが此老人一錢の金も持合せないので舟賃を出さず出来ず日暮れる迄うろたへて居るばかりでした、



新年宴会

六五噸收入一四四七圓一圓以上高収入は前年

平町主催の新年宴会は恒例に於て、今日午前十一時から同町聚樂館に於て開催されるが出席者は六百八十余名で青沼町長、服部中、島崎功、佐藤上茂、作氏、式辭を述べ一同起立萬歳三唱の後宴に移る筈であるが町内紅十字會總出の舞臺ある外



各校の拜賀式

平町所在の塾中、塾女、平商業及び第一、二、三小學校その他の各校では何れも今日午前九時から元旦の拜賀式を舉行す



賀正

今晩は北東の風、曇明日は北東の風、曇後雨又は雪 (小名濱測候所)

- 貴族院議員 金 成通
- 衆議院議員 比佐昌平
- 衆議院議員 鈴木辰三郎
- 衆議院議員 關内正一
- 衆議院議員 野崎滿藏
- 衆議院議員 蓮沼龍輔
- 衆議院議員 福島縣會議員 野崎滿藏
- 衆議院議員 福島縣會議員 蓮沼龍輔
- 衆議院議員 福島縣會議員 關内正一
- 衆議院議員 野崎滿藏
- 衆議院議員 蓮沼龍輔

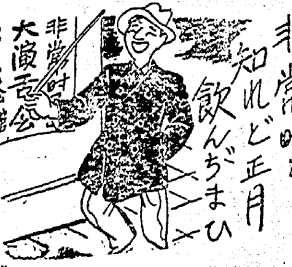
- 中野齒科醫院 院長 中野 息次
- 萩原 申八
- 石城郡飯野村 伊藤淺之助
- 土木建築請負業 渡邊長作

- 明雲堂眼科醫院 (電話 六六九) 平田町(三丁目裏川岸通り)
- 石城郡大浦村 木村清治
- 石城郡御頭 山崎 登
- 小名濱町 飯塚榮一郎

- 平看護婦會 (電話 三〇七)
- 石城郡赤井村
- 石城郡御頭 山崎 登
- 小名濱町 飯塚榮一郎

- 平中央青果市場
- 石城郡御頭 山崎 登
- 小名濱町 飯塚榮一郎
- 平看護婦會 (電話 三〇七)
- 石城郡赤井村
- 石城郡御頭 山崎 登
- 小名濱町 飯塚榮一郎

- 平中央青果市場
- 石城郡御頭 山崎 登
- 小名濱町 飯塚榮一郎
- 平看護婦會 (電話 三〇七)
- 石城郡赤井村
- 石城郡御頭 山崎 登
- 小名濱町 飯塚榮一郎



迎年詞

満壽莊

初空やからすを乗する牛の鞍

何と云ふ静かな光景であらう
浅緑りにクツキリと晴れ渡た
初空の下に今日は仕事も休み
なので脊には乗せず傍らに置
いてゆつくりと草を喰んで居
るその牛の鞍に穏かな牛をか
らかひ顔にからすが遊んで居
る悠々閑々たる田家の正月、
この光景に雪を配したらさし
づめ本年の勲題である、そこ
で一句
のんびりと朝日さしけり
牛の顔

でもこれは昔の田園、サテ近
頃の農村はと云ふことになると
と新年早々愚痴やら歎息やら
牛の涎のいつまでもつきぬ
談話をせねばならぬからマア
止めて置いて、今年の感
懐と偶成を一寸御披露申上げ
「謹賀新年」に代ることゝ致し
ませう、
感懐() 非常時のきづな
にひかれ増税のおも荷に
あえぐ丑の年かな
偶成() 平和には垂涙し
つゝ列強がつのつき合ひ
をやめぬうし年



恭賀新年

されたものです、だから長門
國では牛に脊に物を乗せな
いで曳く一方につかつたさう
です、で元朝高貴の御方が四
方の神々へ國家鎮護の御祈願
に行幸遊ばされる其車を曳く
牛を年内に洗ひ清めて静養さ
せて居ると云ふ句意でありま
た、するとうしろの方から「お
事が出来ず日の暮れる迄うろ
くして居るばかりでした、
其中に日が暮れたので船師は
サツサと歸つて仕舞ひました
憐れむべき老人は牛の絆をつ
かんだまゝぼんやりと川の面
てを見つめて佇んで居りまし
た、するとうしろの方から「お

平消防組

- 組頭 井上茂作
- 副組頭 關内正一
- 庶務部長 鈴木 長三郎
- 會計部長 堀江 正茂
- 同 小頭 三井 富吉
- 第一部長 酒井 清
- 第二部長 岡田 政次郎
- 第三部長 鈴木 彌太郎
- 小頭 高根澤 長太郎
- 田中 宣治
- 田中 宣治
- 根井 幸次郎
- 阿部 治作
- 伍 長 織田 萬次郎
- 伍 長 金成 泉一郎
- 伍 長 菊田 万吉
- 伍 長 岡部 正幸
- 伍 長 片寄 正壽
- 伍 長 小管 榮之助
- 伍 長 水野 壽男
- 伍 長 山野 陽
- 伍 長 大野 松之助
- 伍 長 松崎 喜一

古川瓦工場

電燈電力内外 平町新川町
線工事請負 木村電氣商會
電動機修理 電話一七九番

材木商 佐藤福太郎

石城郡 好間村 銀色瓦工場
小野 無比 雄

志賀材木店

建築建具用材 各種建築請負
平町二丁目 越の家

平驛前通り カネマン玩具店

内外果實問屋 藤居商店
平町三丁目 電話五九三

鈴木染工場

福島縣平町 大平屋藥店
平町三丁目 電話四九二番

味噌醬油 誠屋商店

萬年瓦工業所 江口清

平町三丁目 電話一七二

松崎屋商店

平町北目 電話二九六

矢野輪業商會

平町北目 電話二九六

昭和タクシー

平町北目 電話三三三

公周旋業 青木恒雄

平町北目 電話三三七

大角園

平町北目 電話五七六

大河原自動車部

平町北目 電話五七六

武藏鐵工所

平町北目 電話五七六

平製作所

平町北目 電話四一四

植村質店

平町五丁目 電話五五〇

山光堂

平町三丁目 電話五五〇

大黒屋勝次商店

平町三丁目 電話一六六

正金商會

平町三丁目 電話七二七

正金支店

平町三丁目 電話七二七

強口唯七郎

平町三丁目 電話二八二

日野運送店

平町三丁目 電話二八二

砂利採取部

平町北目 電話二九六

砂利採取販賣部

平町北目 電話二九六

神谷商會

平町北目 電話二九六

安島重三郎

平町北目 電話二九六

鈴木榮

平町北目 電話二九六

小錦 醸造元

平町北目 電話二九六

鈴木喜太郎

平町北目 電話二九六

磐城平町 藝妓屋組合

平町北目 電話二九六

花の井 醸造元

平町北目 電話二九六

大平陸四郎

平町北目 電話二九六

赤津一

平町北目 電話二九六

木村清治

平町北目 電話二九六

山崎登

平町北目 電話二九六

飯塚榮一郎

平町北目 電話二九六

平看護婦會

平町北目 電話二九六

清水正宗 醸造元

平町北目 電話二九六

清世界 醸造元

平町北目 電話二九六

小野晋平

平町北目 電話二九六

古川傳一

平町北目 電話二九六

良品廉賣に

平町北目 電話二九六

釜屋商店

平町北目 電話二九六

穀物検査所

平町北目 電話二九六

最新 會津桐材

平町北目 電話二九六

小松履物店

平町北目 電話二九六

久の濱漁業組合

平町北目 電話二九六

新妻吉之助

平町北目 電話二九六

漢方専門 皇漢胃腸藥

平町北目 電話二九六

山野邊藥局

平町北目 電話二九六

吉田眼科醫院

平町北目 電話二九六

藤沼醫院

平町北目 電話二九六

金成忠義醫院

平町北目 電話二九六

酒井醫院

平町北目 電話二九六

大和田醫院

平町北目 電話二九六

松村鐵郎醫院

平町北目 電話二九六

星眼科醫院

平町北目 電話二九六

大森醫院

平町北目 電話二九六

鈴木眼科醫院

平町北目 電話二九六

大河内一郎醫院

平町北目 電話二九六

白土外科醫院

平町北目 電話二九六

志賀政光醫院

平町北目 電話二九六

根本醫院

平町北目 電話二九六

産業方面

農牛に就て

石城郡農會 柴田技手

丑年の年頭に於て農牛に就ての所感の一片を述べ、最近吾が石城郡に飼牛熱の盛んになつたことは事實である、今郡内にあるものを大別すれば乳牛と肉牛であつて乳牛はホルスヨイン種が多く、肉牛としては三年ばかり前、渡邊村に岩手縣から短角種が導入つたことがあるが餘り發展もせず終つた様である、此の種は縣獎勵の改良和牛が泉、磐崎兩村に相當導入つてゐる乳牛は植田町、錦村に岩手縣から導入つたことがあるが其の他は地方の牛乳屋より出てゐるものも相當にある様である、外には朝鮮牛もある、然し飼牛熱の割合には大した發展もなく持續性もない、山間方面にも漸時牛熱が盛んになり、馬との優劣について大分問ひ合せもある、馬と牛との優劣云々は別として牛を農家に於て飼育する第一目的は農用に使用することであると思ふ、故に使役も最も適する牛を撰擇することに重要點がある、その第一が幾牛飼育の第二が飼育せんとする農家の頭には第一義が遊牧で飼育上より來たる副産物とも云ふべき乳肉の問題、即ち第二義的目的が重要され之れに備へられてゐる様だ、此の第二義的目的は其の村の環境に於ること大にして又對外的である、故に乳を賣るに便なるところ肉を賣るに便なるところによつて自己の飼育する牛を撰擇すべきである、

謹賀新年

上、自己の豫想通り利益を見ることが限らぬ、故に第二義に重要な點を置く場合は飼育上大に不安を感じるを免かれない、不安のある仕事は大地を踏む農業者の取るべきことである、之れは商業者に任せべき仕事である、農業者はよろしく農相努め肉、乳、糞等は副産物として考へべきである、これ眞の農牛飼育の目的である、故に飼育上に悩みのあるべき道理がない、凡そ總ての仕事要す。(終り)

其の仕事の第一義を没却しては其の仕事に意義がない、意氣のないところに發展、持續性は勿論あり得ない、郡内農業者が其所に自覺めぬ事は如何なる優良なる牛をぬき入れ様と成功が困難である、今や此の途、盛んとなり郡聯合の農牛組合まで生れたる今日、其の發展を期し以て農家各自の福利の爲めに農牛飼育の第一義を没却せざるを要す。(終り)

諸銘木 織田材木店 (平町紺屋町) 電話四六〇

志賀盛榮商店 (平町四丁目) 電話二二三

伊勢屋商店 (平町四丁目) 電話四五五

水野藥局 (平町一丁目) 電話六九九

平町料理屋組合 (平町) 電話六九九

湯本町長 石川 徳 壽 (平町) 電話六九九

福島縣會議員 小松 章 (平町) 電話六九九

湯本信用無盡株式會社 (石城郡湯本町) 電話七四七番

湯本町藝妓屋組合 (平町) 電話六九九

金山炭礦 (平町) 電話六九九

山添炭礦々業所 (石城郡勿來町) 電話二二番

平町搔樋小路一四(電三九七)

三佐藤工場事務所 (平町三丁目) 電話二三番

おかや洋服店 (平町三丁目) 電話三三番

佐藤製粉所 (平町三丁目) 電話三三番

家具漆器 丸ほん商店 (平町三丁目) 電話三五九

平町三丁目 横山彰介 (石城郡内郷村小島) 電話(平)六九七番

薄硝子製糖所 (石城郡内郷村小島) 電話(平)六九七番

和洋食堂 エビスヤ 平驛前 (石城郡中學校下) 電話六九八番

大日本電力平營業所 (平町五丁目) 電話一五四

富士食堂 緑川茂 (平町) (材木町) 電話二七二

關内藥局 (平町四丁目) 電話四〇番

小野藥局 (平町四丁目) 電話一四四

平運輸株式會社 (平町) 電話一七番

安田藥局 (石城郡用町) 電話一三〇

山口屋商店 山口近之助 (石城郡植田町) 電話一〇六

時計 菊地時計店 (石城郡植田町) 電話四〇番

味噌製造元 篠原商店 (石城郡錦村) 電話四四番

平郵便局長 佐藤守節 (平町五丁目) 電話六八八

磐城建物株式會社 (石城郡平町) 電話六六番

平電力株式會社 (平町四丁目) 電話二九六

石城郡入道野村 櫛田武美 (石城郡入道野村) 電話二九六

磐城無盡株式會社 (平町古銀治町) 電話四二三番

好間軌道株式會社 (平町古銀治町) 電話四二三番

石城郡好間村 小田 吉治 (石城郡好間村) 電話四二三番

平自動車用品商組合 (平町) 電話二七二

横山商店債券部 (平町) 電話二七二

御料理 谷口 樓 (平町二丁目) 電話二七二

大一屋商店 (平町二丁目) 電話一三番

浅野英男 (石城郡) 清野銅鐵商店 (石城郡) 電話一三番

紋店 吉田寅之助 (平町紺屋町) 電話一三番

住吉屋セメント店 酒井伴城 (平町) 電話六六一

石城 中小互融會 (平町) 電話六六一

堀江工業株式會社 (平町) 電話六六一

平町研町 吉村安次郎 (平町) 電話六六一

石城郡赤井村 川瀬幸藏 (石城郡赤井村) 電話二四九

御旅館 松崎吉三郎 (平町) 電話二四九

渡邊 吳服店 (平町) 電話二四九

平町二丁目 坂本紙店 (平町) 電話四二二

末 廣 (平町) 電話四二二

石城郡豊間村 大敷事務所 (石城郡豊間村) 電話一十一番

磐城小名濱町 (公園) はまや (小名濱) 電話一〇五番

平、田町 市川パン店 (平町) 電話一〇五番

平、南町 松村醫院 (平町) 電話一〇五番

双葉郡富岡町 坂本ニキ製作所 (双葉郡富岡町) 電話一〇五番

焚爐除草器 碎器その他 (平町) 電話一〇五番

特許 (平町) 電話一〇五番

平、四、本局向 きくや (平町) 電話一〇五番

洋品店 (平町) 電話一〇五番

平町、七丁目 山田鐵工所 (平町) 電話一〇五番

近盛 馬目合名會社 (平町) 電話一〇五番

平三業保健組合 (平町) 電話一〇五番

白水炭鑛會 (平町) 電話一〇五番

好進抄 (平町) 電話一〇五番



常識講 賣手買手共に急がず (平町) 電話一〇五番